論文

小規模中学校におけるライフスキル教育に関する研究

Life-skills education in small-scale junior high school

富岡 美佳[1)]・梅﨑 みどり[2)]

キーワード：小規模中学校，ライフスキル教育，中学校教員
Key words：small-scale junior high schools，life-skills education，junior high school teachers

要旨：本研究は， 生徒数が少なく，大勢でのコミュニケーションの機会が少ないことが課題である，小規模中学校の教育の特性を知り，ライフスキル教育の効果を検討する事を目的とした。方法は，A 県内の小規模な中学校でライフスキル教育を導入し，教育活動を展開した教員 7 名を対象にフォーカスグループインタビューを実施し，面接内容を逐語録化し，内容分析を行った。結果,【小規模中学校の持つ生徒の特性】として控えめな生徒ではあるが,【地域や自然に見守られる小規模中学校の利点】があり,【小規模中学校の教育の利点と課題】を感じながら【高等学校への移行時の漠然とした不安】を持ち【ライフスキル教育への期待】を持っていた。小規模中学校は，現代の生徒の持つ課題解決には多くの利点を持つことが明らかとなった。

Ⅰ．緒言

我が国では，少子化が進み，児童の数の減少により，文部科学省は学校規模の適正化について検討をしている。学校の統廃合に関する課題や離島や過疎地の学校規模などについては，あくまでも児童生徒の教育上の改善という観点を主軸としている[1)]。この教育上の観点という中でも，児童・生徒数が少ない事により，多様な意見に触れさせる事や，コミュニケーションの機会が少なくなる事,新たな人間関係を築きにくい事などが懸念される。また，モデルとなる存在である上級生や下級生との関係構築の経験は重要であることから学校規模や学級数は子どもにとって影響の大きいものである。

学校において，社会性を育成する際の主要な内容として，基本的な生活習慣，対人関係の在り方，集団活動の体験，規範意識の獲得，社会生活の体験などがあげられている[2)]。学校という集団生活で，これらを獲得していく必要性がある。一方，小規模校の利点では，離島における児童生徒の研究において，ストレス要因が少なくサポートが充実していることや[3)]，文部科学省が示した学校規模によるメリット・デメリットにおいても，学習面では，児童生徒の一人一人に目がとどきやすく、学校行事や学校活動においても個別の活動機会を設定しやすいとされている[4)]。学校運営と学校規模の研究では，学校における資源

1）2）山陽学園大学助産学専攻科

の違いは何らかの形でその差はマネージメントされていると報告されている[5)]。

社会性を育成するという観点から，小規模中学校の持つ力を最大限に活用しながら，集団活動から得られる心理社会的能力とされるライフスキルの向上が必要である。WHO は，ライフスキルに関して「ライフスキルとは日常生活で生じる様々な問題や要求に対して，建設的かつ効果的に対処するために必要な心理社会能力である」と定義している[6)]。「自己認識」，「共感性」，「効果的コミュニケーションスキル」，など 10 項目がある[7)]。これらのスキルを培うことで，自尊感情の向上に繋がることが知られている。多くの時間を学校で過ごす生徒にとって，上記スキルの習得を目指し，学校におけるライフスキル教育が進むことが望まれる。ライフスキル教育は、さまざまな教育の現場で効果をあげてきた[8) 9) 10)]。小規模中学校は, サポート体制が取りやすい事や, 目が届きやすい事などの利点があるが, 生徒数が少なく，大勢でのコミュニケーションの機会が少なく，人間関係を築く力が付きにくいことから，本研究では，小規模中学校の教育の特性を知ることにより，ライフスキル教育を展開する事の示唆を得ることを目的とした。

Ⅱ．研究方法

1.　用語の定義

小規模中学校：3~11 学級を持つ中学校[11)]

2．調査方法

A 県内のライフスキル教育を導入し，教育活動を展開した教員 7 名を対象に，フォーカスグループインタビューを実施した。20 代～50 代前半の男性 4 名，女性 3 名で, 小規模中学校での教育経験が 2 校以上ある教員とした。研究期間は、2012 年 9 月～11 月であった。半構成的面接を行い，質的帰納的に分析を行い，質的研究者のスーパーバイズを受けた。インタビューガイドは，生徒の学校生活の様子，生徒に必要な教育的関わり，生徒との関わりで教員が必要とする能力，ライフスキル教育についてとした。山陽学園大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

Ⅲ．結果

小規模中学校の教員が語った内容は，【】はカテゴリー，＜＞はサブカテゴリー，［　］はコード，「」（斜体）は研究参加者の発言を表した。

1．小規模中学校の持つ生徒の特性

小規模中学校の生徒は［あと一歩というところで遠慮］するなど，＜控えめな生徒達＞が気になっていた。＜人の目を気にして踏み出せない一歩＞が特徴であると語った。また，［自己主張できない生徒とその反対の両極端］などと少人数であるが対極的な＜二極化する集団＞のように感じられていた。人数が少ない事から＜学校行事や部活の活性化への課題＞があった。特に，人間関係では，言葉を発さなくても［視線や雰囲気で表現］し合うなど，＜言葉ではない表現で通じ合う関係＞が構築されていた。一方で［学年が変わってリセットできない］事など*「小学校の友達関係の順位，能力的な，勉強でも運動でも，そのイメージがくっついたまま中学校も引きずるのです」*という＜崩すことのできない人間関係＞の窮屈さを懸念していた。

表１　小規模中学校の持つ生徒の特性

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
小規模中学校の持つ生徒の特性	控えめな生徒達	あと一歩というところで遠慮
		学力的に高くても遠慮する
		パワーがある子の遠慮
		ひとつの反応を遠慮することから生じる逆の反応
	人の目を気にして踏み出せない一歩	特に人目を気にする女子
		友達の反応に過剰な緊張
		周りの反応を気にして踏み出せない
		もっている力があるのに踏み出せない
	二極化する集団	小人数のための個性の強さ
		自己主張できない生徒とその反対の両極端
		元気のいいことおとなしい子
		自己主張しすぎる学年の存在
	学校行事や部活の活性化への課題	試合に出ることへのためらい
		部活動が充実できないジレンマ
		全校で活動しないと行事ができない
	言葉ではない表現で通じ合う関係	視線や雰囲気で表現
		言葉にはしないが目線で感じる
	崩すことのできない人間関係	崩れない人間関係の序列
		幼少から引きずる人間関係
		やり直しのきかない3年間
		学年が変わってリセットできない

2. 地域や自然に見守られる小規模校の利点

自然に恵まれ，地域の人々からの見守りの中［地域の活動で自己表現］が出来る事の素晴らしさや，*「クリーン行事を，小学生，中学生，婦人会，青年団，地域の人，全員でしましょうというのが回ってくる。しっかり見てもらえているかなという感じ」など*、［地域から頼られる存在］である＜地域との強い絆＞という利点が語られた。［お家の人と四季を愛でる生活ノート］など＜自然の中で四季を感じ成長する＞様子もあった。

表２　地域や自然に見守られる小規模校の利点

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
地域や自然に見守られる小規模校の利点	地域との強い絆	地域の活動で自己表現
		場面が変化すると活発さが表現できる
		地域から頼られる存在
		地域とのつながり
		地域から見守られる
		地域の人と家族を絡んでいる
	自然の中で四季を感じ成長する	お家の人と四季をまなでている生活ノート
		季節を感じて成長している

3. 小規模校の教育の利点と課題

［不登校生徒へのチーム連携がスムーズ］な事や*「小回りがきくんですよ。担任，特別支援コーディネーター，養護教諭がいつでも話し合う」と*、［直に響く］というスピーディーな教育活動は＜小規模校での教育効果＞であった。［小回りが利く］というコードが示すように，軽やかに生徒への対応が出来ていた。一方，少人数の中で，簡単に分かり合える事や，自己表現の機会を少なくする心配があり，［集団で伸ばしてやりたいジレンマ］も感

じていた。これらは,［大規模校の教育経験で予測できない教育活動］となり，＜小規模校でのジレンマ＞になっていた。［個に目が行きすぎる］［見えない事まで見える］という＜全てがみえてしまう＞事による、＜手をかけ過ぎることへの警鐘＞を常に自身に銘じていた。

4. 高等学校への移行時の漠然とした不安

教師たちは，高等学校に行った後の心配をしていた。［守られた中での生活から生じる将来の心配］を持ち［新しい集団でやっていけるか心配］で特に*「新しい集団に入ってやっていけるのかという心配，人間関係で躓くんじゃないか」と*、［人間関係で躓く心配］をしていた。＜高校になった時の漠然とした不安＞は，＜免疫がないことによる不安＞でもあった。［コンビニがない日常］や［寄り道ができない生活］から［免疫がないからいきなりはじける不安］として語られた。

表３　小規模校の教育の強みと課題

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
小規模校の教育の利点と課題	小規模校での教育効果	気配り、目配りが十分
		手厚い教育
		小回りがきく
		不登校生徒へのチーム連携がスムーズ
		学校、家庭、地域の連携
		直に響く
	小規模校でのジレンマ	生徒の自己主張にこだわる
		集団で伸ばしてやりたいジレンマ
		大規模校の教育経験で予測できない教育活動
		学年による比較・判断
	手をかけ過ぎることへの警鐘	手をかけ過ぎることへの注意を心がける
		子ども自身の可能性を見守る事への不安
		気を遣いすぎることが本人のためにならないと知る
	全てがみえてしまう	個に目がいきすぎる
		見えないことまで見える
		いい意味でも悪い意味でも全部見える

表４　高等学校への移行時の漠然とした不安

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
高等学校への移行時の漠然とした不安	高校になった時の漠然とした不安	高校になった時に心配
		高校で自己表現ができるようにしたい
		新しい集団でやっていけるか心配
		人間関係で躓く心配
		守られた中での生活から生じる将来の心配
	免疫がないことによる不安	免疫がないからいきなり変わる不安
		コンビニがない日常
		寄り道ができない生活
		一番心配なSNS
		荒くもまれる体験がない

5. ライフスキル教育への期待

生徒数の少ない中で［自分や相手を思いやるコミュニケーション能力］［自己肯定感を育むことにより力を付けたい］という思いから＜ライフスキル教育の教育効果への期待＞があった。また，*「ライフスキルがやはり必要で、生徒の自尊感情を高めてやることで，自己*

肯定感とかいうものをつけていけたら自分で将来に向けて考えていくことができる」と、［高校に行ってつぶれないためにライフスキル教育が必要］と感じていた。ライフスキル教育の参加型学習法を［他の授業に広げられたという実感］があった。ライフスキル教育の効果を感じながら，［時間的な制約を乗り越える］，効果を最大限にできるように前向きな語りが見られた。

表５　ライフスキル教育への期待

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
ライフスキル教育への期待	ライフスキル教育の教育効果への期待	深い人間関係を経験するためのライフスキル教育の重要性
		ライフスキル教育の成果を広げる努力の重要性
		自分や相手を思いやるコミュニケーション能力
		命の教育が基本となるＬＳＴへの期待
		自己肯定感を育むことにより力を付けたい
	多くの体験の必要性	高校に行ってつぶれないためにLSTが必要
		多くの体験を与える必要性
		自分を表現できる体験を心の中に残す
	ライフスキル教育と教科の連携	ライフスキル教育に教員の気配りをプラスする
		教科と連携
		他の授業に広げられたという実感
	ライフスキル教育の課題	時間的な制約を乗り越える

Ⅳ．考察

小規模中学校の教員が語った内容は,【小規模中学校の持つ生徒の特性】,【地域や自然に見守られる小規模中学校の利点】,【小規模中学校の教育の利点と課題】,【高等学校への移行時の漠然とした不安】,【ライフスキル教育への期待】の 5 つのカテゴリーで構成された。しかしながら、小規模校の持つ特性は，小規模に特化した事ではない可能性もある。中学生の仲間集団への所属の研究において，男女共に，仲間集団への所属は 8 割という結果がある。多くの生徒達は仲間集団に所属して学校生活を送っている [12]。仲間関係は，児童期後半の小学生の時期に 3～5 人以上の人数であるギャンググループを形成し，思春期前半の中学生チャムグループが出来，高校生の時期には親密な友人関係であるピア・グループが出来ると言われている [13]。このように，児童生徒にとって，仲間の持つ役割は大きい。本研究でも，［あと一歩というところで遠慮］するといった消極的な生徒の姿が窺えた。中学校に進学する以前のギャンググループの時期からのグループ編成を変える事は難しい事と，新しい仲間つくりの経験が少ない事から，仲間の発達の経験を意識的に経験できる教育方法が必要である。ライフスキル教育は，仲間とのグループディスカッションなどがあることから，対人関係のスキルなどが期待できる。

コミュニティ・スクールは，学校と保護者がともに知恵を出し合い，学校運営に意見を反映させることで，一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み [14] とされ文部科学省が推進している。平成 27 年現在では，44 都道府県 2389 校が指定され，前年度からは 470 校の増加があった [14]。学校や子供たちが抱える課題や，家庭・地域社会が抱える課題を地域ぐるみで解決し，子供たちの健やかな成長と質の高い学校教育の実現を図る目的がある [14]。本研究では，【地域や自然に見守られる小規模校の利点】があった。小規模中学校では，その役割は以前からしくみが出来ていたことが推察される。地域活動が学校活動と連携しており，地域からも期待される

生徒たちは，視野を広く持つ体験をしていた。学校，地域，家庭の連携に関する実践は小規模中学校に学ぶ必要がある。自然体験が少なくなり，インターネットの普及などの児童生徒への影響が懸念される中で，多くの自然が日常の中にある生活を見直し，本研究成果のような自然を感じる生活ノートが書ける環境つくりにも目を向けていく必要がある。持続可能な教育に関する取り組みも進む中で，自然環境が学習者の生活にある事は，持続可能な未来を創る人を育成する事にも繋がる[15]。小規模校の教育の利点として教師が感じていた，小回りが利くという利点や不登校の生徒への連携がスムーズであることは，児童生徒の課題の早期解決が期待される。不登校児童は，平成 13 年度調では 57.6%から平成 25 年は 58.3%と減少しているが，不登校児童の在籍している学校数は増加傾向にあり，学年が上がるごとに増加しており，小学 6 年生から中学 2 年生の時期が増加している[16]。不登校の原因は不安や無気力などが挙げられている。小さなサインに気が付く事が早ければ，専門的な支援を早期に受ける事も可能である。小規模中学校がこのような機能があるという事を知る事は，規模の違う学校へ示唆を与える事が期待できる。

このように，小規模中学校は，現代の生徒の持つ課題解決には多くの利点を持つことが明らかとなった。しかしながら，高等学校への移行時の漠然とした不安を抱いていたことも明らかとなった。多くの価値観に触れ，人間関係のスキルを身に着ける事を強く願っていた。ライフスキル教育は，自尊感情の向上を目指した教育方法である。講義型の学習方法ではなく参加型の学習方法である。多くの教育アプローチにより，仲間と学ぶ学習方法である。ライフスキル教育を受ける事により対人関係スキルやコミュニケーションスキルの向上が期待できる。また，本研究でも教科との連携が進められるようになっていた。ライフスキル教育のアプローチが教科にも連動されより成果が大きくなると考える。

本研究は, 限られた地域で実施したため, 今後継続して検討する必要がある。くわえて, 学校規模の違いによる特性については言及する事ができておらず，今後は大規模な学校との比較の必要性がある。

謝辞

本研究の協力者の方に，心から感謝申し上げます。本研究は，第 61 回日本学校保健学会において一部発表した内容に加筆を行った。

（本研究は科学研究費補助金（23593356「青年期の性の健康と権利を支えるコミュニティ機能に関する研究」の一部である。）

利益相反

本論文に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはない。

文献

1) 文部科学省．公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～．2017[last access 2017 Jan 10].Available from: http : //www.mext.go.jp/component/a_menu /education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2015/07/24/1354768_1.pdf.

2) 国立教育政策研究所生徒指導研究センター．「社会性の基礎」を育む「交流活動」・「体験活動」－「人とかかわる喜び」をもつ児童生徒にー．2017[last access 2017 Jan 10].Available from: http : //www.nier.go.jp/shido/centerhp/syakaisei.pdf.

3) 大川直子，井澤昌子，鍵岡正俊，佐藤秀子，森川英子，盛岡郁晴．離島における小規

模校の児童生徒のストレス状態．関西女子短期大学紀要．2008;18：23-28.
4) 文部科科学省．初等中等教育分科会　小・中学校の設置・運営の在り方などに関する作業部会　学校規模によるメリット・デメリット（例）．2017[last access 2017 Jan 10].Available from: http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/038/siryo/08120806/001.htm.
5) 波多江俊介.学校規模が学校経営諸現象に与える影響の考察.九州情報大学研究論集．2014；16：37-45.
6) 川畑徹朗．WHO・ライフスキル教育プログラム．東京：大修館書店； 1997．p12.
7) WHO Division of Mental Health . Training Workshop for the Development and Implementation of Life Skills Programmes. Part 3 of the Document on Life Skills Education in Schools. 1993.1-11.
8) 富岡美佳，梅﨑みどり，井上理絵．看護学生の学士課程におけるライフスキル教育の効果．山陽看護学研究会誌．2015；5(1)：11-16.
9) 富岡美佳．中学生を対象としたライフスキルトレーニングを用いた性教育プログラムの効果．思春期学．2007；25（4）：436-444.
10) 松林愛子，梅崎みどり，富岡美佳．定時制高校生のライフスキルトレーニング導入の効果の検討．山陽看護学研究会誌．2014；4(1)：17-20.
11) 文部科学省．法令等から見た適正規模について．2017[last access 2017 Jan 10].Available from:http://betsukai.jp/tekiseihaichi/sr－4.html 石田靖彦，小島文.中学生に於ける仲間集団の特徴と仲間集団との関わりの関連～仲間集団の形成・所属動機という視点から～．愛知教育大学研究報告．2009；58：107-113.
12) 中間玲子.青年期の自己形成における友人関係の意義．兵庫教育大学研究紀要．2014；44：9-21.
13) 文部科学省．コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）．2017[last access 2017 Jan 10].Available from:http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community.
14) 富岡美佳．持続可能な開発のための教育（ESD）の理論と実践，第 4 章持続可能な社会にむけたソーシャルスキル．東京．ミネルヴァ書房； 2012. p12.
15) 文部科学省．不登校児童生徒への支援に関する最終報告．2017[last access 2017 Jan 10].Available from: http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/108/houkoku/1374848.htm.

Abstract: The present study, involving small-scale junior high schools with small numbers of students who have few opportunities to communicate with many people, aimed to examine the characteristics of these schools and the effects of life-skills education. A focus group interview, involving seven teachers implementing educational activities in small-scale junior high schools in a prefecture that had introduced life-skills education, was conducted, and the results were documented verbatim and analyzed. The teachers stated that although [the students tend to be modest as a characteristic of students attending small-scale schools], [these schools have both educational advantages, including [children growing up receiving support provided by

the community and surrounded by nature], and problems]. Although [the students felt vaguely anxious about advancing to high schools], [the teachers had high expectations for life-skills education]. Small-scale junior high schools have many advantages in that they play important roles in addressing problems faced by today's students.